

## 経営のヒント73 著書対話勉強会の薦め

### 「一方通行の講義」から「双方向の対話」へ

今回の10月開催「未来創造志塾」から、竹内お上人の著書「企業再構築の仕掛け・バリューマネジメント」をテキストに使用しながら、参加メンバーと講義＋対話形式で勉強会を開催しました。

今回のメインテーマは「激動の時代に企業が生き残る条件」です。

企業環境の歴史的な大転換期を迎えて、熾烈な戦いが本格化してきました。

**あなたの企業は本当に生き残れるのだろうか？ そのキーワードは？**

**衰退の原因は外部環境ではなく、すべて内部要因に起因している。**

**激動の時代には、成功体験のある企業ほど、生き残りが極めて困難となる。**

**治世と乱世の本質的相違を把握しない限り、戦略構築は不可能である。**

対話「経営問答」「人間学問答」とは？ 具体的には？

著書（テキスト）との対話

講師との対話

参加メンバーとの対話

歴史との対話

それぞれの経験・価値観との対話

自分自身との対話

この「対話」というものは、教育の原点、あるいは基本と言ってよいだろう。

東洋では、孔子の「論語」は弟子との対話・問答で構成されている。「孟子」も対話の集大成である。

西洋でも、哲学の父ソクラテスの対話が有名である。

又、近代では、1924年からハーバート大学から対話主体の事例研究法がMBAとつながっている。

日本の教育現場や家庭でも「双方向の対話」から「一方通行の知識詰め込み」になって人間関係が崩壊した。企業内でも「対話」が出来ている組織がイノベーション（革新）に成功している。

個人でも「自己との対話」が出来ている人物が人間的な成長「器量が大きい」といわれている。

では、人間力を向上するには、どうすればいいのか？

その答えは、「志操」が必要であり重要だ。

…志を操る

その為には、「対話」する「鏡」が必要です。

…自分自身を鑑みることに繋がります。

**対話」することにより…特に自己との対話が重要です。**

**「より深く」ものごとの本質が深堀できる**

**「より広く」大局的に俯瞰できる**

**「より長く」将来を見通せる先見力が身に付く**

**「より考え」相手の想い・考えが深く理解できる**

**対話」することによって、「思考力」を身に付ける「訓練」となるはずだ。**

**企業の教育の現場では、急速に「対話教育」にシフトしています。**

**是非ともテキストを使用した「対話勉強会」を開催することをお薦めいたします。**